

# 1年間の取組み2025

2025年度 学校法人中村産業学園 事業報告書  
文理芸融合のグローバル総合大学へ



次代を描く感性、世界を動かす実践力  
九州産業大学  
九州産業大学造形短期大学部

# 目次

## 01 | 法人の概要

1. 基本情報	01
2. 建学の理想	01
3. 建学の理念	01
4. ブランド体系	01
5. 沿革	02
6. 設置する学校・学部・学科等	03
7. 学校・学部・学科等の学生数の状況	04
8. 収容定員充足率	04
9. 役員の概要	05
10. 評議員の概要	06
11. 会計監査人の概要	07
12. 理事選任機関の概要	07
13. 教職員の概要	08

## 02 | 事業の概要

1. 主な教育・研究の概要	09
2. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況	10
• 教育分野	10・11
• 研究分野	12
• 国際化分野	13
• 産学連携分野	14
• 社会・地域貢献分野	15
• ダイバーシティ分野	16
• ブランディング分野	17
• 経営基盤分野	18
• 数字で見る実績	19
• 中期計画 第1フェーズ(2021-2025)の歩み	20・21

## 03 | 財務の概要

1. 決算の概要	22
2. その他	28
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	30

## 04 | 学校法人の業務の適正を確保するための体制 (内部統制システム)の整備及び運用状況の概要

附属明細書	33
-------	----

# 01 | 法人の概要

## 1. 基本情報

### (1) 法人の名称

学校法人中村産業学園

### (2) 主たる事務所の住所、電話番号等

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台二丁目3番1号

電話番号：092-673-5050 FAX：092-673-5599

ホームページ：<https://www.kyusan-u.ac.jp/>

## 2. 建学の理想

さん が く い ち に よ

# 産学一如

産業と大学は車の両輪のように一体となって  
時々の社会のニーズを満たすべきである。

## 3. 建学の理念

### 九州産業大学

- ・市民的自覚と中道精神の振興
- ・実践的な学風の確立

### 九州産業大学造形短期大学部

- ・造形の伝統を継承
- ・産業社会に有用な人材育成

## 4. ブランド体系

### ○ ブランドメッセージ

#### 次代を描く感性、世界を動かす実践力

ただ未来を夢見るだけでは、何も動き出さない。  
必要なことは、理想への道筋を描き、それを実現する力。  
私たちは建学以来、豊かな感性と確かな実践力を育み、  
時代の変革に応じてきました。  
これからも変革を志す、すべての人とともに、  
産業と地域、そして世界を動かしていく。  
九州産業大学の揺るぎない決意です。

### ○ ブランドアイデンティティ

#### [存在意義]

芸術的感性と実践的知性で、課題を見つける想像力と解決する実行力を育み、  
産業、地域、そして世界に活力をもたらす。

#### [私たちが共有する価値観]

- ・教職員が一体となって知識と熱意を結集し、学生一人ひとりの成長に寄与する。
- ・文理芸融合による、幅広い視野と自由な発想で、教育と研究の可能性を拓げる。
- ・地域の一員として、社会課題の発見と解決をリードする。

## 5. 沿革 2025年5月現在

西暦	月	内容
1960年	4月	九州商科大学商学部商学科の単科大学として開学
1962年	4月	商学部産業経営学科増設
1963年	1月	設置者を学校法人中村英数学園より学校法人中村産業学園に、大学名を九州商科大学より九州産業大学と改称認可
	4月	工学部（機械工学科、電気工学科、工業化学科）設置、商学部経済学科増設
1964年	4月	商学部第二部（経済学科、商学科）設置、工学部（土木工学科、建築学科）増設
1966年	4月	芸術学部（美術学科、デザイン学科、写真学科）設置
1968年	4月	九州造形短期大学開学（設置者：学校法人九州中村高等学園）、経営学部産業経営学科設置
1972年	4月	芸術専攻科（美術専攻、デザイン専攻、写真専攻）設置
1973年	3月	商学部産業経営学科廃止
	4月	大学院工学研究科修士課程（機械工学専攻、電気工学専攻、工業化学専攻、土木工学専攻）設置
1974年	4月	大学院芸術研究科修士課程（美術専攻、デザイン専攻、写真専攻）設置
1975年	4月	大学院経済学研究科修士課程（経済学専攻）、工学研究科修士課程（建築学専攻）増設
	7月	九州英数学館を中村産業学園より分離
1976年	11月	九州造形短期大学の設置者を学校法人九州中村高等学園から中村産業学園に変更
1981年	4月	経営学部国際経営学科増設
1993年	4月	経済学部経済学科〈昼間主コース・夜間主コース〉設置
1994年	4月	国際文化学部（国際文化学科、地域文化学科）設置、大学院経営学研究科修士課程（経営専攻）〈昼夜開講制〉設置
1996年	4月	大学院商学研究科修士課程（商学専攻）〈昼夜開講制〉発足
	4月	大学院工学研究科博士後期課程（生産システム工学専攻、社会開発・環境システム工学専攻）〈昼夜開講制〉増設
1997年	4月	大学院経営学研究科博士後期課程（経営専攻）〈昼夜開講制〉増設
1998年	4月	大学院国際文化研究科博士課程（国際文化専攻）〈昼夜開講制〉設置
	4月	大学院商学研究科博士後期課程（商学専攻）〈昼夜開講制〉増設
1999年	4月	商学部第一部観光産業学科、商学部第二部観光産業学科増設
	4月	大学院経済学研究科博士後期課程（経済学専攻）〈昼夜開講制〉増設
	4月	大学院芸術研究科博士後期課程（造形表現専攻）〈昼夜開講制〉増設
2000年	7月	商学部第一部経済学科、商学部第二部経済学科廃止
2002年	4月	情報科学部〈社会情報システム学科、知能情報学科〉設置、芸術学部芸術工芸学科増設
2004年	4月	工学部バイオロボティクス学科発足、工学部工業化学科を物質生命化学科へ、土木工学科を都市基盤デザイン工学科へ名称変更
	4月	国際文化学部臨床心理学科増設
	4月	大学院情報科学研究科博士前期課程・博士後期課程（情報科学専攻）〈昼夜開講制〉設置
	4月	大学院国際文化研究科博士課程〔5年一貫制〕（国際文化専攻）〈昼夜開講制〉を大学院国際文化研究科博士前期課程・博士後期課程（国際文化専攻）〈昼夜開講制〉に改組
	4月	大学院経済学研究科、商学研究科、経営学研究科、工学研究科、芸術研究科の修士課程を博士前期課程へ課程名称変更
2007年	4月	工学部電気工学科を電気情報工学科へ名称変更、九州造形短期大学造形芸術学科設置
2008年	4月	芸術学部写真学科を写真映像学科へ名称変更、国際文化学部地域文化学科を日本文化学科へ名称変更
	5月	九州造形短期大学美術科廃止
2009年	4月	情報科学部情報科学科設置
	4月	大学院経済・ビジネス研究科博士前期課程（経済学専攻、現代ビジネス専攻）〈昼夜開講制〉・博士後期課程（経済・ビジネス専攻）〈昼夜開講制〉設置
	5月	九州造形短期大学デザイン科・写真科廃止
2010年	4月	工学部住居・インテリア設計学科増設
2011年	4月	大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程（産業技術デザイン専攻）〈昼夜開講制〉設置
2012年	4月	大学院芸術研究科博士前期課程（造形表現専攻）〈昼夜開講制〉設置
2013年	3月	大学院芸術研究科博士前期課程（美術専攻、デザイン専攻、写真専攻〈昼夜開講制〉）廃止
2014年	3月	芸術学部芸術工芸学科廃止
	4月	大学院商学研究科博士後期課程（商学専攻〈昼夜開講制〉）廃止
	4月	大学院経営学研究科博士後期課程（経営専攻〈昼夜開講制〉）廃止
	4月	大学院工学研究科博士後期課程（生産システム工学専攻〈昼夜開講制〉）廃止
2015年	3月	情報科学部知能情報学科廃止
	5月	情報科学部社会情報システム学科廃止
2016年	4月	芸術学部（芸術表現学科、写真・映像メディア学科、ビジュアルデザイン学科、生活環境デザイン学科、ソーシャルデザイン学科）発足
	4月	九州造形短期大学の校舎を九州産業大学キャンパス内に移転
2017年	4月	理工学部（情報科学科、機械工学科、電気工学科）、生命科学部（生命科学科）、建築都市工学部（建築学科、住居・インテリア学科、都市デザイン工学科）発足
	4月	短期大学名を九州造形短期大学より九州産業大学造形短期大学へ名称変更
2018年	3月	大学院工学研究科博士後期課程（社会開発・環境システム工学専攻〈昼夜開講制〉）廃止
	4月	商学部（経営・流通学科）、地域共創学部（観光学科、地域づくり学科）、人間科学部（臨床心理学科、子ども教育学科、スポーツ健康科学科）発足
2020年	3月	芸術学部（美術学科）廃止
2021年	3月	工学部（物質生命化学科・建築学科）廃止
2022年	3月	工学部（都市基盤デザイン工学科・住居・インテリア設計学科）、芸術学部（デザイン学科）廃止
	5月	工学部（バイオロボティクス学科）、芸術学部（写真映像学科）廃止
	12月	商学部第二部（商学科）廃止
2023年	3月	商学部第一部（観光産業学科）、工学部（機械工学科、電気情報工学科）、情報科学部（情報科学科）廃止
	12月	国際文化学部（臨床心理学科）廃止
2024年	5月	商学部第一部（商学科）廃止
	12月	経営学部（産業経営学科、国際経営学科）廃止

## 6. 設置する学校・学部・学科等 2025年5月現在

## 九州産業大学

## (1) 学部

学部	学科
経済学部	経済学科
商学部	経営・流通学科
地域共創学部	観光学科
	地域づくり学科
理工学部	情報科学科
	機械工学科
	電気工学科
生命科学部	生命科学科
建築都市工学部	建築学科
	住居・インテリア学科
	都市デザイン工学科
芸術学部	芸術表現学科
	写真・映像メディア学科
	ビジュアルデザイン学科
	生活環境デザイン学科
	ソーシャルデザイン学科
国際文化学部	国際文化学科
	日本文化学科
人間科学部	臨床心理学科
	子ども教育学科
	スポーツ健康科学科

## (2) 大学院

研究科	専攻・課程
経済・ビジネス研究科	経済学専攻 博士前期課程
	現代ビジネス専攻 博士前期課程
	経済・ビジネス専攻 博士後期課程
工学研究科	産業技術デザイン専攻 博士前期課程
	産業技術デザイン専攻 博士後期課程
芸術研究科	造形表現専攻 博士前期課程
	造形表現専攻 博士後期課程
国際文化研究科	国際文化専攻 博士前期課程
	国際文化専攻 博士後期課程
情報科学研究科	情報科学専攻 博士前期課程
	情報科学専攻 博士後期課程

## 九州産業大学造形短期大学部

学科
造形芸術学科

## 7. 学校・学部・学科等の学生数の状況

## 九州産業大学

2025年5月1日現在  
(単位：人)

## (1) 学部

学部	学科	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
経済学部	経済学科	1993	400	431	1,600	1,682
商学部	経営・流通学科	2018	470	499	1,940	2,059
地域共創学部	観光学科	2018	150	152	600	612
	地域づくり学科	2018	140	169	540	581
理工学部	情報科学科	2017	140	150	560	597
	機械工学科	2017	130	100	520	408
	電気工学科	2017	100	76	400	327
生命科学部	生命科学科	2017	110	117	440	445
建築都市工学部	建築学科	2017	75	81	300	309
	住居・インテリア学科	2017	65	72	260	263
	都市デザイン工学科	2017	60	53	240	210
芸術学部	芸術表現学科	2016	70	66	265	303
	写真・映像メディア学科	2016	55	55	205	236
	ビジュアルデザイン学科	2016	75	73	300	329
	生活環境デザイン学科	2016	55	53	265	217
	ソーシャルデザイン学科	2016	45	42	165	193
国際文化学部	国際文化学科	1994	80	115	320	374
	日本文化学科	1994	60	82	240	263
人間科学部	臨床心理学科	2018	70	88	280	308
	子ども教育学科	2018	80	85	320	325
	スポーツ健康科学科	2018	100	105	360	377
合 計			2,530	2,664	10,120	10,418

## (2) 大学院

2025年5月1日現在  
(単位：人)

研究科	専攻・課程	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
経済・ビジネス研究科	経済学専攻 博士前期課程	2009	7	2	14	8
	現代ビジネス専攻 博士前期課程	2009	20	3	40	10
	経済・ビジネス専攻 博士後期課程	2009	5	0	15	7
工学研究科	産業技術デザイン専攻 博士前期課程	2011	35	17	70	37
	産業技術デザイン専攻 博士後期課程	2011	4	1	12	2
芸術研究科	造形表現専攻 博士前期課程	2012	14	27	28	54
	造形表現専攻 博士後期課程	1999	6	4	18	16
国際文化研究科	国際文化専攻 博士前期課程	1998	15	10	30	28
	国際文化専攻 博士後期課程	1998	5	3	15	13
情報科学研究科	情報科学専攻 博士前期課程	2004	20	11	40	19
	情報科学専攻 博士後期課程	2004	4	0	12	0
合 計			135	78	294	194

## 九州産業大学造形短期大学部

2025年5月1日現在  
(単位：人)

学科	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
造形芸術学科	2007	150	169	300	321

## 8. 収容定員充足率

## 九州産業大学

毎年度5月1日現在  
(単位：倍)

区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学部	0.99	1.00	1.01	1.02	1.03
大学院	0.43	0.46	0.49	0.60	0.66

## 九州産業大学造形短期大学部

毎年度5月1日現在  
(単位：倍)

区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
短期大学部	0.99	1.02	0.98	1.02	1.07

## 9. 役員概要

## (1) 理事・監事の定員数、氏名等

<定員数> 理事：14人以上17人以内 監事：2人以上4人以内  
<現員数> 理事：15人 監事：3人

2026年3月31日現在

役職名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	業務執行・非業務執行	担当職務及び現職
理事長	岩崎 和人	2025年6月19日	常勤	業務執行	
理事	北島己佐吉	2021年4月1日	常勤	非業務執行	九州産業大学長
理事	柳 健司	2025年3月31日	常勤	非業務執行	九州産業大学造形短期大学部学長
理事	藤原 敦	2019年6月16日	常勤	業務執行	学校法人中村産業学園常務理事(兼)九州産業大学教務部事務部長
理事	柁田 勝司	2023年6月16日	常勤	業務執行	学校法人中村産業学園常務理事(兼)事務局長
理事	高原 浩之	2025年6月19日	常勤	業務執行	学校法人中村産業学園常務理事(兼)総合企画部長
理事	吉田 泰彦	2021年6月16日	非常勤	非業務執行	株式会社福岡銀行顧問、株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ代表取締役社長
理事	道永 幸典	2021年6月16日	非常勤	非業務執行	西部ガスホールディングス株式会社代表取締役会長
理事	青柳 俊彦	2022年6月16日	非常勤	非業務執行	九州旅客鉄道株式会社取締役会長
理事	堀江 広重	2019年6月16日	非常勤	非業務執行	西日本鉄道株式会社顧問、一般社団法人九州経済連合会専務理事
理事	千 相哲	2017年6月16日	常勤	非業務執行	九州産業大学副学長
理事	牛見 宣博	2022年4月1日	常勤	非業務執行	九州産業大学理工学部学長
理事	栗田 融	2023年6月16日	常勤	非業務執行	九州産業大学芸術学部学長
理事	三浦 香織	2022年4月1日	常勤	非業務執行	九州産業大学国際文化学部学長
理事	鐘ヶ江淳一	2023年6月16日	常勤	非業務執行	九州産業大学人間科学部学長
監事	岩田 英治	2013年6月16日	常勤	-	学校法人中村産業学園常勤監事
監事	田邊 達也	2021年6月16日	常勤	-	学校法人中村産業学園常勤監事
監事	相場 公博	2021年6月16日	非常勤	-	

## (2) 責任免除に関する決議等、責任限定契約、補償契約及び役員賠償責任保険契約の状況

## ① 責任限定契約

私立学校法に従い、2020年4月1日より随時（役員改選に伴う場合）責任限定契約を締結した。

## ア. 対象役員の氏名

- ・ 非業務執行理事 吉田泰彦、道永幸典、青柳俊彦、堀江広重
- ・ 監事 岩田英治、田邊達也、相場公博

## イ. 契約内容の概要

非業務執行理事及び監事が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、金10万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする。

## ウ. 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約の内容に、役員がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の定めがある。

## ② 役員賠償責任保険制度への加入

私立学校法に従い、理事会決議により2020年4月1日から東京海上日動火災保険株式会社の学校法人向け役員賠償責任保険に加入した。

## ア. 団体契約者 学校法人中村産業学園

## イ. 保険期間中総支払限度額 10億円

## ウ. 補償内容

- i. 役員に関する補償（法律上の損害賠償金、争訟費用）
- ii. 記名法人に関する補償（法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用）

## エ. 支払い対象とならない主な場合

- i. 役員が私的な利益又は便宜の供与を違法に得たもの
- ii. 役員の犯罪行為・ハラスメント行為
- iii. 法令に違反することを認識しながら行った行為
- iv. 保険期間の初日において、役員が対象事由が発生するおそれのある状況を知っていたもの

## 10. 評議員の概要

定員数、氏名等

<定員数> 18人以上 20人以内 <現員数> 18人  
2026年3月31日現在

氏名	就任年月日	担当職務及び現職
萱沼 美香	2023年6月16日	九州産業大学経済学部長
高木 昇	2022年4月1日	九州産業大学商学部長
満生 慎二	2024年4月1日	九州産業大学生命科学部長
峠畑 賢二	2025年6月19日	学校法人中村産業学園総務部長
堀内 公代	2025年6月19日	学校法人中村産業学園人事部長
山崎 一郎	2023年6月16日	学校法人中村産業学園財務部長
佐藤 尚文	2023年6月16日	元株式会社九電工相談役
池内比呂子	2025年6月19日	株式会社テノ. ホールディングス代表取締役社長
河内 美香	2023年6月16日	大濠総合法律事務所天神オフィス弁護士
道法 辰文	2023年6月16日	九州産業大学同窓会楠風会会長
坂本 二美	2017年6月16日	九州産業大学同窓会楠風会副会長
緒方 俊光	2024年11月27日	九州産業大学同窓会楠風会常務理事
松尾亜伊里	2025年6月19日	九州産業大学造形短期大学部同窓会薫風会会長
阿部 友美	2025年3月18日	九州産業大学後援会会長
谷本 伸寛	2025年3月18日	九州産業大学後援会副会長
山本 英世	2025年3月18日	九州産業大学造形短期大学部後援会会長
中村 治	2009年6月16日	学校法人九州中村高等学園理事長
組坂 法人	2012年4月1日	九州産業大学付属九州産業高等学校長

## 11. 会計監査人の概要

(1) 会計監査人の定員数、名称又は氏名・就任年月日等

&lt;定員数&gt; 1人

2026年3月31日現在

名称又は氏名	就任年月日等
有限責任 あずさ監査法人	就任年月日：2025年6月19日

(2) 責任免除に関する決議等、責任限定契約、補償契約及び役員賠償責任保険契約の状況

責任免除：なし

責任限定契約：なし

補償契約：なし

役員賠償責任保険契約：あり

## 12. 理事選任機関の概要

構成等

2026年3月31日現在

この法人の理事選任機関は評議員会。  
理事選任機関の構成員は、全ての評議員。

## 13. 教職員の概要 (2025年5月1日現在)

## (1) 教育職員数

九州産業大学 (単位:人)

所属	職位	専 属				計	助 手
		教 授	准教授	講 師	助 教		
経済学部		15	7	6	2	30	0
商学部		22	13	1	0	36	0
地域共創学部		17	9	3	1	30	0
理工学部		29	8	6	5	48	3
生命科学部		11	5	1	2	19	1
建築都市工学部		18	6	2	0	26	6
芸術学部		24	11	5	0	40	9
国際文化学部		11	3	5	0	19	0
人間科学部		18	10	8	1	37	6
健康・スポーツ科学センター		2	2	2	1	7	0
国際交流センター		1	0	0	0	1	0
語学教育研究センター		2	2	21	0	25	0
基礎教育センター		5	5	2	0	12	0
総合機器センター		0	0	1	1	2	0
臨床心理センター		0	0	0	0	0	0
美術館		0	1	0	0	1	0
伝統みらい研究センター		0	0	0	1	1	0
合 計		175	82	63	14	334	25

\* 客員教授を除く。

・平均年齢： 51.3歳

・兼務者数： 572人

九州産業大学造形短期大学部 (単位:人)

所属	職位	専 属				計	助 手
		教 授	准教授	講 師	助 教		
造形芸術学科		6	5	2	0	13	0
合 計		6	5	2	0	13	0

\* 客員教授を除く。

・平均年齢： 53.1歳

・兼務者数： 77人

## (2) 事務職員数

九州産業大学 (単位:人)

区分	人数
職員	304

九州産業大学造形短期大学部 (単位:人)

区分	人数
職員	6

\* 事務職員等には他企業からの出向者を含む。

## 02 | 事業の概要

## 1. 主な教育・研究の概要

九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部においては教育活動の充実を目的として3つのポリシー（学位の授与方針、教育課程編成・実施の方針、入学者の受け入れ方針）を策定しています。

## 九州産業大学

## 〔学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）〕

本学は、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 幅広い教養と専門的知識を備え、適切に活用できる。
2. 論理的に思考し、判断することができる。
3. 技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
4. グローバルな視点で多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って持続可能な社会の発展に貢献できる。
5. 広い視野を持って、主体的に他者と協力できる。
6. 情報技術を活用することができる。

## 〔教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〕

本学は、K S U基盤教育を基礎として、各学部・各学科の専門科目の正課教育、並びに総合大学として特色あるK S Uプロジェクト型教育を行う。また、サークル活動やボランティア活動といった正課外教育も行う。

1. K S U基盤教育において、幅広い教養及び総合的な判断力を培うとともに豊かな人間性をもった人材を育成する。
2. 専門教育において、特定の分野を学び、知識や情報の活用を通して社会で実践できる人材を育成する。
3. K S Uプロジェクト型教育及びその他の正課外活動において、様々な経験をすることにより、他者をいたわることや地域の課題解決など地域に貢献する人材を育成する。

## 〔入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）〕

本学は、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、学習意欲が高い人。
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人。
3. 特定分野において卓越した能力をもっている人。

## 九州産業大学造形短期大学部

## 〔学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）〕

## 目指すべき人材像

今日の造形芸術領域の融合と多様化に適応し、誠実で創造性に富んだ、企業や社会に必要とされる人材の養成を目指す。

## 到達目標

社会人としての豊かな教養、総合的判断力の修得とともに、各系列ごとの専門的能力を追求し、今日の多様な社会や文化の創造に貢献し得る能力を養成する。基礎教育科目、外国語科目及び専門科目から所定の単位を修得し、卒業単位（62単位以上）の基準を満たしたものに短期大学士（芸術）の学位を授与する。

## 〔教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）〕

## 教育課程の理念

造形芸術領域の融合と多様化に対応し、社会のニーズに適応できる人材を育成するカリキュラムを構築する。基礎教育科目と外国語科目では必修科目、選択必修科目を中心に、豊かな社会性を養うことを目指し、専門科目では選択必修科目を軸に、個々の修学の目的に対応した選択科目を開講することで、社会に有用な専門性を持った人材育成を志向する。

## 教育課程の構成

造形芸術学科の教育課程は基礎教育科目、外国語科目及び専門科目で編成する。基礎教育科目では、必修科目として大学生活から卒業後のキャリアまでを案内する科目を置き、選択必修科目として国語系科目と外国語科目を置く。

専門科目では、すべての系列に共通する科目を共通専門科目とし、各系列に関係する科目を3つの領域にまとめ、領域専門科目とする。初年度に共通専門科目の基礎となる科目を必修科目・選択必修科目とし、まず、これを学ぶ。その後、各自の系列を意識しつつ、2年次につながる領域専門科目（系列専門科目）を学ぶ。2年次で各系列での選択必修科目を履修することで10系列に分かれる。領域専門科目での必修科目は最小限であり、カリキュラムとして造形芸術領域の融合と多様化に対応する。

## 教育課程の特長

1学科に3領域10系列をおき、全領域の科目を時間割の許す限り履修することができる独自の科目構成とする。造形芸術領域の融合と多様化に適応し、個々の学生が選択する系列を軸に、様々な興味や目標に対応できるカリキュラムとする。

自由度の高い個々のカリキュラム作りや、卒業後の進路の目標を大学での学びに結びつけることを指導するため、少人数クラスでの担任制や基礎教育必修科目、オフィスアワーの実施などできめ細かく対応する。

## 〔入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）〕

本学の建学の理念に基づいた教育を行うために、本学が求める学生像は次のとおりである。

- ・ 芸術を愛好する心情を持ち、個性豊かな造形的表現力を身に付けようとする人。
- ・ 何事にもとらわれない自由な精神を持つ人。
- ・ 確かな技術の修得に努力する人。
- ・ 造形芸術をとおり、地域社会に貢献する意欲のある人。

## 2. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

## 教育分野



多様な資質を有する学生の獲得および文理芸が融合した実践力をみかく教育を実施する。

## 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ アドミッション・ポリシーに沿った優秀な学生の獲得
- ▶ 実践力を育成する教育プログラムの推進
- ▶ 新時代に対応した教育プログラムの開発
- ▶ 学年暦の柔軟化
- ▶ 教学マネジメントの確立
- ▶ 学生の満足度を向上させる支援の実施
- ▶ ポストコロナ時代へ対応した支援の実施
- ▶ 高等教育機関としての学び直しの推進

### 理工学部 半導体・電子デバイス教育の学内外連携による推進 【2026年4月】新・理工学部の誕生 — 情報 × 機械・電気の融合教育へ

理工学部では、半導体人材の需要拡大を背景に、半導体・電子デバイス分野の人材育成体制を整備しています。本学では、文理芸の学生が共に学ぶことができ、各学部学科の専門性を基盤としながら、半導体産業で求められる文理芸融合の付加価値を備えた教育を実施。地元企業と連携した実践的な講義の実施に加え、高校生向け模擬講義・ワークショップも開催するなど、次世代の育成に向けた取り組みにも注力しています。

また、2026年4月に、従来の情報科学科に加えて、機械電気創造工学科およびスマートコミュニケーション工学科の2学科を新設しました。新設の2学科では、複数の分野を希望する領域を系統立てて学ぶことができ、学生は専門分野の知識を深めながら、異分野を専攻する学生との協働プロジェクトにも参加できます。情報・機械・電気の融合を軸とした次世代型教育体制を構築し、産業界や社会の変革に対応できる高度専門人材の育成を目指します。



半導体・電子デバイス実験室

### 生命科学部における実践的な商品開発の推進

生命科学部では、研究サークル「化粧品開発研究会」が、オリジナル化粧品の開発に取り組んでいます。

学生は、同世代の肌トラブル解決をテーマに、数ある成分の中から配合や効果検証を行い、化粧水「アクアレラローション」と保湿リップ「華馬〈HARUMA〉」を開発。福岡クリスマスアドベント会場での販売も行うなど、商品化から販売に至るまでの一連の工程を学生が主体となって実施しました。

今後も、学生の視点を活かした商品開発を通して、専門知識と実践力の向上を図り、学部ならではの特色ある教育を推進していきます。



## 志賀島の歴史を紡ぐお守りを制作「OMAMORI PROJECT」

地域づくり、経済、商学など、各専門分野を学ぶ学生たちとデザインを学ぶ造形短期大学部生が集まり、志賀島の歴史と文化を未来へと繋ぐオリジナルお守りを企画・デザインしました。

学生たちはそれぞれの専門性に合わせ役割分担を行い、企画・プロモーション考案とデザイン探究をそれぞれ担当。学びを実践的な場で活かす力を身に付けました。

今後も、各専門分野の視点を活かした学部横断型の実践的なプロジェクトを推進していきます。



## 戦後80年、被爆者の想いを絵画に「被爆体験絵画プロジェクト」

芸術学部では、学生が被爆者本人から当時の場面や状況を聞き取り、絵画として描く「被爆体験絵画プロジェクト」に取り組みました。

今年度で3年目となる本プロジェクトでは、言葉や写真だけでは伝えにくい当時の場면을絵画で表現し、後世に戦争の記憶を伝え続けることを目指しています。

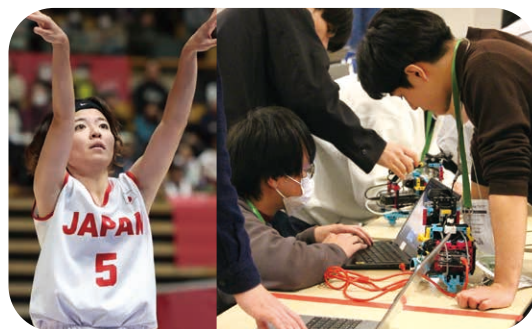
作品は、北九州市平和のまちミュージアムにて展示されたほか、今後は証言活動時の説明資料として活用される予定です。



## 多様な活動を支援する課外活動の推進

本学では、学生の課外活動にも力を入れています。人間科学部の豊里 凛さんは、「2025東京デフリンピックバスケットボール競技」において、女子日本代表として出場し、金メダル獲得に大きく貢献しました。

また、理工学部の学生は、走行ロボットの設計および制御をチームで競う「ETロボコン2025チャンピオンシップ大会アドバンストクラス」競技部門において、優勝を果たしました。今後も、本学は多様な課外活動を推進し、学生の挑戦を支援していきます。



人間科学部  
豊里 凛さん

ETロボコン2025大会の様子

## 生成AIを活用した社会人向け実践型プログラム

本学では、(株)QTnetと連携し、生成AIに関する講座を開講しました。

「明日から使えるビジネスへのAI活用 基礎講座」では、ビジネスにおけるAI活用に関心のあるすべての方を対象に、生成AIを活用した課題解決や業務効率化の手法について、ワークショップやディスカッションを交え実践的な形式で行いました。

「AIモデル完全攻略講座」では、AIの基礎知識を有する方を対象に、AIやプログラミングの基礎的な知識から応用スキルまで、講座ごとに異なるテーマで体系的な学びを提供しました。

今後も、生成AIの活用を通じて、地域のデジタル人材育成を推進していきます。



# 研究分野



研究力の向上を目指すとともに、教育研究体制の充実を図る。

## 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 文理芸を融合した学際的研究の推進
- ▶ 研究実績の拡大
- ▶ 産業界と連携した研究の推進
- ▶ 優秀な大学院生の獲得
- ▶ 大学院の改革

## 研究成果の社会実装による地域の公共交通支援

理工学部の地域公共交通運行管理支援グループが、宗像市と宮若市を結ぶバス路線「宮若・宗像線」向けのGTFS-JP(公共交通オープンデータ)形式によるデータ作成支援を行いました。

これによりバス路線「宮若・宗像線」が、Googleマップの経路検索に反映され、スマートフォンやPCからバスの経路や時刻を確認することが可能となりました。

今後も、研究成果の社会実装を行い、地域の利便性向上に貢献していきます。



## 地球温暖化対策のために温室効果の低い冷媒開発に向けた研究「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」に選出

理工学部では、地球温暖化対策のために、温室効果の低い冷媒開発の研究を進めています。

特に、新しい家庭用エアコン用の冷媒の開発を目指し、エアコンや冷凍機に使われている冷媒というガスの物性(蒸気圧や密度、比熱など)を正確に計算できる「式」や「プログラム」の開発に取り組んでいます。

これらの取り組みが高く評価され、本学理工学部の研究者が「世界で最も影響力のある研究者トップ2%」\*にランクインしました。

今後も、各国の研究者とともに世界共通の規格やソフトウェアを開発し、温室効果の低い冷媒の実用化を目指します。

\* Updated science-wide author databases of standardized citation indicators



選出された 機械電気創造工学科 赤坂 亮 教授

## 学生参加型の共同研究プロジェクトを推進

学生が教員とともに研究活動に取り組む学生参加型の受託・共同研究プロジェクトを推進しています。企業との共同研究への主体的な参画を通して、専門性と実践力の育成につなげています。

### <主な共同研究プロジェクト>

未来のモビリティ体験を学生の視点から創出するプロジェクト  
芸術学部 × スズキ(株)

学生が考える未来の車のUX(ユーザー体験)をデザインに落とし込み、3Dモデリングとプレゼンテーションを通じて提案を行うプロジェクト

フカヤ株式会社本社の執務環境の再生を目指した空間デザインプロジェクト  
建築都市工学部 × フカヤ(株) × (株)総研

老朽化した本社建物の一部(社員執務フロアや休憩室等)の試験的なリニューアルを考え、提案を行うプロジェクト

# 国際化分野



留学プログラムの充実を図り、様々な海外経験を通じて、グローバル人材の育成を目指す。

## 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 国際感覚を養うプログラムの展開
- ▶ 学生の海外経験の増加及び留学支援体制の強化
- ▶ 優秀な留学生の獲得及び支援の強化
- ▶ 海外大学・組織等との連携の強化
- ▶ 国際化を推進する体制の整備

## 国際学会「Global Hospitality and Tourism Research Summit-Fukuoka」開催

観光におけるイノベーション、競争力、持続可能性をテーマにした国際学会を本学で開催しました。

本学会はセントラルフロリダ大学(米国)との共催で行い、世界40ヵ国から200名を超える参加者を迎えました。

観光学の最新の研究結果や実践について議論が行われ、国際的な研究交流の促進にもつながる機会となりました。



## 他大学と連携したグローバル人材の育成

### 海外派遣を通じた国際教育の推進とグローバル人材育成の展開

本学では、海外大学が提供する教育プログラムへの学生派遣を通じ、学生の国際的な視野の獲得と語学力向上を図っています。

2025年度は理工学部の学生が、スタンフォード大学でのサマーセッションに本学から初めて参加。英語力の向上だけでなく、世界的な課題についても学びを深め、国際的な視野を身に付けました。

今後も、学生派遣を推進し、グローバル人材の育成を目指します。



派遣中の現地での様子




## 海外大学との連携を強化

本学では、海外大学との国際交流協定締結を推進し、連携の強化を図っています。協定校との共同教育や研究を進めるとともに、COIL型教育\*や現地活動を組み合わせた取り組みにより、グローバル人材の育成に注力しています。

この他にも、今後は外国人留学生の受け入れも促進し、大学間の相互交流を通じて、学術的かつ国際的な関係の構築を目指します。

\* オンラインを活用し、自国にいながら海外大学と交流できる新たな双方向型の教育手法

### <主な新規協定校>

建陽大学校(韓国) 	セントラルフロリダ大学(アメリカ) 	ピレネー高等美術デザイン学校(フランス) 
韓国西部に2つのキャンパスをもつ総合大学。本学地域共創学部およびグローバル・フードビジネス・プログラム(GFBP)と連携し、地域・観光振興についての交流会を実施しました。	フロリダ州オーランド拠点の州立大学。本学地域共創学部と連携し2025年5月に国際学会を共催しました。	フランスのポーとタルプに拠点を置く公立の芸術・デザイン高等学校。アート・陶芸・グラフィックデザインを専門とし、約250名の学生にEU認定の国家資格を授与しています。

# 産学連携分野



企業との共同研究や、大学発ベンチャーの設立など研究成果の社会実装を目指し、産学連携を強化する。

## 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 社会性の高い研究の促進
- ▶ 産学官連携を強化するネットワークの構築
- ▶ 大学発ベンチャーの育成

### URA 起点の産学官連携による地域共創プロジェクトの展開

本学では、専門人材URA\*を起点として、自治体との連携深化による産学官連携プロジェクトを推進しています。

「KSUちはやサービスエリア」プロジェクトは、福岡市の「ガーデンズ千早ちはや公園」で、九州各地の魅力を発信する期間限定アンテナショップを企画・運営するプロジェクトです。

今年度は全4弾/4自治体を展開。大分県佐伯市をはじめとする4つの自治体と地域共創学部、商学部、芸術学部の学生が連携し取り組みました。学生は、店舗運営や店舗の空間デザイン、ポスター制作などを行い、各専門分野の学びを実践に活かしました。

今後も、産学連携を通じて学生の実践力を育成し、地域社会への貢献を図っていきます。

\* ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター。研究活動の活性化、研究プロジェクトの管理、外部資金獲得などを支援する人材



### 学部横断型プロジェクトによる地域の魅力発信アプリの開発

理工学部と芸術学部の学生20名が、九州旅客鉄道(株) (JR九州)と連携し、デジタル駅スタンプ収集アプリ「かしい線 de DENCHA旅」を開発しました。

香椎線沿線の魅力発信を目的に、理工学部の学生がQRコードを読み取ると駅スタンプを収集できるアプリ開発を、芸術学部の学生が地域の歴史や名所をモチーフにしたスタンプデザインを考案。専門分野の異なる学生同士が意見交換を重ね、共同でアプリを完成させました。

アプリの配信開始により、香椎線沿線の魅力発信及び地域の活性化を促進。今後も、学部間が融合した産学連携に取り組みます。



App Storeよりダウンロードできます



### 芸術を通じた社会連携とSDGs 推進に向けた取り組みの展開

芸術学部の学生が、芸術を通じた地域との社会連携やSDGsに関する取り組みを行っています。

「ふくおか県芸術文化祭」では、会場空間のデザインを担当し、来場者の動線や視認性に配慮したブースレイアウトや看板の設置方法を提案しました。また、福岡県をテーマにした「ふくおかるた」も制作。福岡の魅力を絵と言葉で表現するとともに、イベントでは来場者が実際に体験できるブースを提供しました。

この他にも、障がいのある人たちのアート作品「まごころアート」をもとにした缶バッジ制作体験を実施し、その収益をポリオ根絶を目指す活動へ寄付するなど、SDGsに繋がる活動にも取り組んでいます。



# 社会・地域貢献分野



地域の課題解決に向けた取り組みや本学施設を利用した交流などを通じて、地域に貢献する大学を目指す。

## 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 地域社会の課題解決へ向けた貢献活動の推進
- ▶ 本学の施設を活用した地域との交流
- ▶ 地域に向けた知の発信

### 将棋を通じた地域の子どもたちとの交流を育む公開講座の実施

近隣地域の小中学生を対象に、「夏休み子ども将棋教室」を主催しました。

QTnet将棋センター協力のもと、本学将棋愛好会および九州産業大学附属九州産業高校将棋部の計20名が運営スタッフとして参加。小学校1年生から中学校3年生まで計86名が参加し、将棋を通じた交流を楽しみました。

この他にも、本学では子どもから高齢者に至るまで幅広い年齢層を対象に、大学の教育・研究等の知的財産を社会に還元するため、年間を通して公開講座を開講しています。



### 地域の課題解決に繋がる活動を展開 地域貢献と復興支援を担う学生ボランティア活動の推進

本学では、復興支援ボランティア活動や地域社会の課題解決に貢献するボランティア活動に取り組んでいます。

福岡トライアスロン2025では、学生110名が大会運営や海岸清掃のボランティア活動に参加。また、サッカー部は、豪雨で被災した福津市の農園で、復興支援のボランティア活動を実施しました。

参加した学生は地域課題に直接向き合うことで、災害復興や地域振興の重要性を再認識。これらの活動が主体的に行動する姿勢を身に付ける機会となっています。

今後も、社会や地域に寄り添ったボランティア活動を推進し、地域社会への貢献を目指します。



### 大学施設を活用した地域連携スポーツイベントの実施

本学健康・スポーツ科学センターおよび人間科学部がアビスパ福岡スクールならびにギラヴァンツ北九州スクールと連携し、本学陸上競技場にて、小学生対象「1DAYサッカークリニック」を開催しました。

イベントには、地域の小学生サッカーチームに所属する子どもたち55名が参加。シュートやドリブルなどの技術指導の体験やトレーニングマッチを実施し、参加者は意欲的に取り組みました。

今後も、本学の施設を活用し、学内外の多くの方が参加できる取り組みを展開していきます。



# ダイバーシティ分野



多様な人々が集い学ぶインクルーシブな大学運営を行う。

## 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 男女共同参画社会を担う学生の育成
- ▶ 多様な学生への支援
- ▶ 多様な教職員の参画機会拡大

### 多様な学生が学びやすいキャンパス環境を整備

本学では、すべての人が安心して利用できるキャンパス環境の整備に取り組んでいます。

2025年度は、バリアフリーに関する環境整備として、車いす利用学生のヒアリング結果をもとに、各建物のエレベーターに「優先サイン」表示の設置や、弱視者の人も認識しやすい大きめのピクトマークを追加した「弱視者に配慮したサイン」の改修等を行いました。

また、便座に座る際に姿勢を安定させたり、転倒を防いだりする「だれでもトイレの便座背もたれ」を設置しました。

今後も、誰もが学びやすく、過ごしやすい大学を目指し、施設面の改善を継続的に進めていきます。



### インクルーシブな環境づくりの推進

多様な性のあり方を認め合う大学・組織づくりを促進するため、「性の多様性(LGBTQ+)に関する基本的な考え方」を制定しました。

この基本的な考え方には、学生や教職員及び関係者の多様な性に関する理解を深め、全ての人の自己決定を尊重することや、性自認や性的指向などを理由とした差別やハラスメントを許容しないことなどを盛り込みました。

今後も、性の多様性に関する勉強会や研修会を開催して学内外の理解促進を図り、誰もが安心して自分らしく過ごすことができる環境づくりを推進します。

#### 【性の多様性に関する基本的な考え方】

1. 差別やハラスメントの禁止
2. 教育・啓発活動の推進
3. 多様な性のあり方への理解と自己決定の尊重
4. 個人情報の適切な管理

### 女性教員やキャリア採用者のネットワーク構築を支援

女性教員のキャリア形成支援とネットワークの構築を目的に、グループメンタリング(交流会)を実施しました。

グループメンタリングでは、設定したテーマに基づくディスカッションを実施。新任女性教員と先輩女性教員の交流を深め、着任後の不安や悩みの解消を図るとともに、速やかに環境に慣れ、教育および研究活動に専念できるよう支援しています。

この他にも、キャリア採用の事務職員に対しても交流会を実施し、業務理解を深める機会の創出やネットワーク構築の支援を行っています。



キャリア採用の事務職員対象の交流会の様子

# ブランディング分野



本学ならではのブランドイメージを発信し、産業界や地域への広報・広聴活動を拡充する。

## 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 本学ならではのイメージ構築
- ▶ 産業界や地域への広報・広聴機能の拡充

### ブランドイメージを象徴するビジュアルアイデンティティの刷新

新ブランドイメージを象徴する新たなブランドマークへの刷新を行い、2026年4月より展開しています。

新ブランドマークは、本学校章のモチーフである楠の葉と椎の葉、そして円のフォルムから着想を得て、「産と学」、「感性と実践力」といった本学の特長と人々のつながりを象徴的に表現。外部発信により本学の姿勢や魅力を広く伝え、ブランド価値の向上を図ります。

この他にも、新ブランドメッセージ「次代を描く感性、世界を動かす実践力」を視覚的に表現したブランドムービーを制作し、ホームページやCM等で発信。文理芸の融合による学びや実践型プロジェクトを通じた社会連携の強みを表現しています。

今後も、ブランド価値の向上とブランドメッセージの浸透に向けた取り組みを加速していきます。

大学公式YouTube  
チャンネルよりご覧  
いただけます



新ブランドマーク



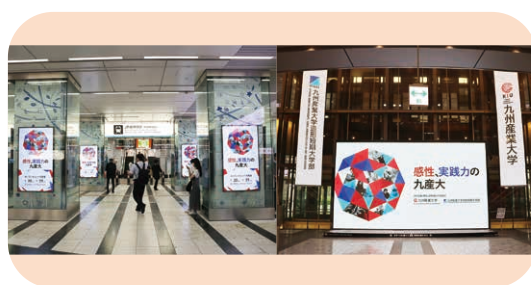
次代を描く感性、世界を動かす実践力

### ブランドメッセージ浸透に向けたクロスメディア広報展開

新ブランドメッセージの浸透を図るため、学内外で多様なプロモーション施策を展開しました。

学外では、JR博多駅1階コンコースをビジュアル広告でジャックし、ブランドムービーなどをデジタルサイネージや大型ビジョンを使って紹介。学内では、教育改革の歩みやブランドメッセージ、グローバル教育の取り組みを紹介するヘリテージコーナーを2カ所に設置しました。

今後も、来訪者や学生に本学の魅力を発信する広報展開を進めていきます。



### 鈴懸とコラボした学園オリジナル記念品で本学の魅力発信

本学客員教授で博多人形師の中村信喬氏と、博多老舗和菓子店「鈴懸」が連携し、学園オリジナルの手土産(菓子折り)を制作しました。

本企画のために、「鈴懸」のこだわりである掛け紙の挿絵を中村信喬氏に依頼し、博多の伝統文化と本学の個性を融合した象徴的なアイテムとして仕上げました。

今後は、本手土産を活用し、本学の魅力発信と地域の連携強化につなげていきます。



九州産業大学

中村信喬氏デザインによる掛け紙

# 経営基盤分野



大学運営の基盤強化および職員のさらなる能力向上を目指す。

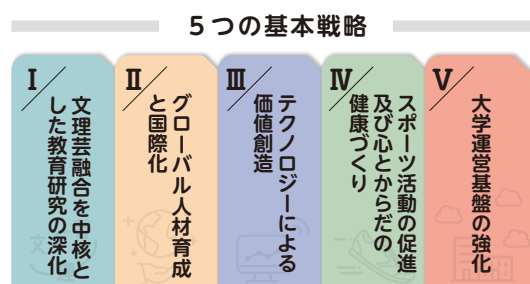
## 中期計画第1フェーズ2025年度までの目標

- ▶ 継続的な組織改革
- ▶ IR機能の強化
- ▶ ガバナンスの強化
- ▶ 教員組織の充実
- ▶ 同窓会・卒業生との関係強化
- ▶ 財政基盤の一層の強化
- ▶ 業務改革・効率化
- ▶ 事務職員の能力開発
- ▶ 将来を見据えたキャンパス整備

## 中期計画第2フェーズの策定

本学の中期計画(2021-2030)に掲げる目標「文理芸融合のグローバル総合大学へ」の実現に向け、中期計画第2フェーズ(2026-2030)を策定しました。

第2フェーズでは、第1フェーズ(2021-2025)の成果を基盤として、文理芸融合を中核とした教育研究や、国際化やテクノロジー活用をさらに深化させます。また、外部環境の変化に対応しながら5つの基本戦略に基づく取り組みを加速していきます。



## 事務職員採用業務プロジェクト「TALENT RISE PROJECT」始動

若手職員が主体となって採用活動に参画する学内公募型プロジェクトを始動させました。

本プロジェクトは、将来の大学運営を担う人材の確保と採用活動の充実を目的とするもので、若手職員がチームを編成し、事務職員採用ホームページの企画・制作をはじめ、インターンシップの企画・運営や採用選考などに取り組みます。

採用活動への主体的な参画を通じて、職員の成長と組織横断的な連携を促進。本学の魅力をより効果的に発信していきます。



## 柔軟な働き方を実現する職場環境の整備

本学では、働き方改革及び業務効率化の観点から、事務職員全員を対象にテレワーク制度を導入しています。本制度の導入により、通勤時間の削減や出張時の時間の有効活用が図られ、業務効率が向上。家族の体調不良などの急な予定変更にも柔軟に対応でき、より働きやすい環境が整いました。この他にも、学内にはテレワークに対応した専用スペースも整備され、働く場所の選択肢が広がりました。

さらに、事務職員全員に業務用スマートフォンが貸与され、場所を問わず学内システムにアクセスができるようになり、業務の効率化が進みました。加えて、学内外の連絡手段の一元化により、従来よりも通信環境の利便性が向上しています。



学内のテレワーク専用スペース「ジムコ」



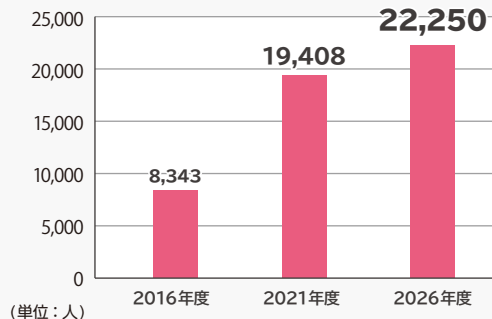
# 数字で見る実績

## 🔍 志願者数

オープンキャンパスやキャンパスセミナー等、各種イベントの実施を通じた募集活動の強化により、志願者数は22,000人を超えています。今後も、多くの方に選ばれ続ける大学を目指し、教育研究活動の活性化や本学ならではの魅力発信に取り組みます。

※ 2026年度：2026年度4月入学希望の志願者数

10年で  
約14,000人増加

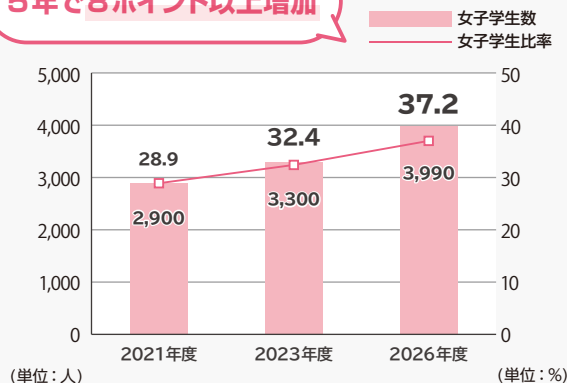


## 🔍 女子学生比率

女子学生比率は、2021年度の28.9%から2026年度には37.2%となり、過去5年間で着実に上昇しました。本学では、学生の意見交換を通じた多様なニーズへの対応や、男女共同参画の視点に立ったキャリア教育等の推進により、多様な学生が安心して学べる環境づくりを進めています。

※ 2026年度：2026年5月1日現在の女子学生比率

5年で8ポイント以上増加

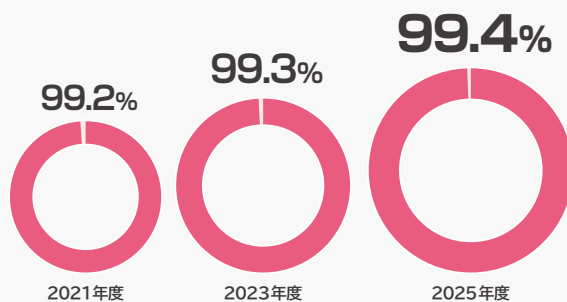


## 🔍 就職決定率 (対就職希望者)

就職決定率は、過去最高水準を維持し、99.4%となりました。キャリア支援センターを中心に、各種資格取得講座や、学内合同企業研究会、本学主催のインターンシップ等、学部や学年に合わせた多種多様な就職支援プログラムを展開。学生の就職活動を全面的にサポートしています。

※ 2025年度：2026年5月1日現在の就職決定率 (対就職希望者)

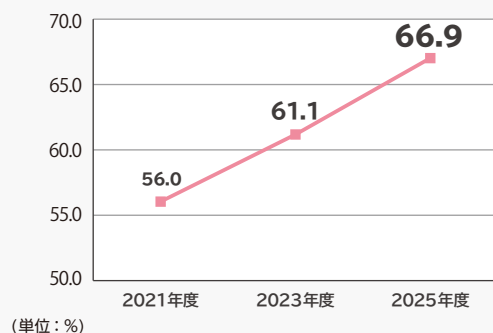
過去最高水準  
を維持!



## 🔍 サークル加入率

課外活動支援や広報活動の強化により、サークル加入率は着実に向上しており、2025年度には約3人に2人の学生がサークルに加入しました。今後も、課外活動の活性化や参加機会の充実を図るとともに、多様な学生が主体的に活動できる環境づくりを推進していきます。

約3分の2の  
学生が加入



# 九州産業大学 中期計画 (2021-2030) 文理芸 第1フェーズ (2021-2025) の歩み

2021年度に始動した中期計画第1フェーズでは、教育・研究・国際化・産学連携をはじめとする各分野において体制整備と取り組みの拡充を進めてきました。文理芸融合を軸とした教育改革やリスキリング教育の展開、海外大学と連携した教育プログラムの開設、産学共創体制の構築など、教育・研究の充実と社会との連携強化を段階的に推進。第2フェーズへとつながる土台を確立しました。

## 2021

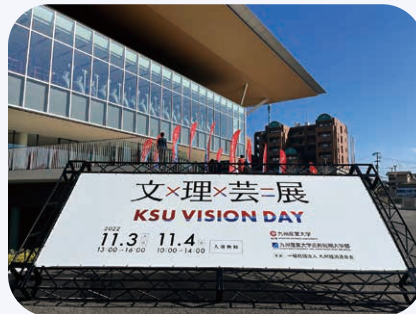
### 2025年度目標に向けた基盤整備

- KSU 基盤教育の再構築  
～文理芸融合の横断型教育の推進体制を整備～
- 新時代に対応した魅力ある教育プログラムの構築  
(AI・データサイエンス副専攻/グローバル・フードビジネス・プログラム)
- 社会人の学びを支援するリカレント教育の開講  
(免許法認定講習)
- 国際感覚を養うプログラムの展開  
～国外研修の代替措置として、オンライン型国際協働学習を実施～
- 「オープンイノベーションセンター・インスペース」福岡市の特定創業支援等事業の事業者に認定
- 「SDGs学長宣言」の制定  
～SDGsの実現に向けた全学的取り組みを推進～
- 設置\_アドバイザーボード  
～産業界への広聴活動を強化～

## 2022

### 学部横断型教育の展開

- 新設\_文理芸融合型教育  
クロス科目(学部横断型授業)  
コラボ科目(学部協力型授業)
- 新設\_AI・データサイエンス副専攻  
～全学部対象に導入から応用レベルまで、体系的に学ぶ～
- 「第1回 KSU VISION DAY」開催  
～産学官連携プロジェクトを地域社会へ発信・研究活動を活性化～



- 多様な学生に対応した相談・支援体制の整備  
～ダイバーシティ推進シンボルマークを発信～



- イメージを統一した広報活動の展開  
「超えるを学ぶ」



## 20

### 教育プログラ 国際化の推進

- 新設\_アドバンスト  
～やる気のある学  
特別教育～
- 新設\_グローバル・  
プログラム  
～フードビジネスの



- 導入\_スタンフォード  
連携プログラム  
「Stanford e-



- 国連世界観光機関  
認証(TEDQUAL)

- 2025クォーター  
学的な教育改革の  
(新カリキュラムの

- 観光分野の社会  
開講

# 融合のグローバル総合大学へ

## 23

プログラムの拡充と

少人数  
プログラム  
生に伝える

フードビジネス・

グローバル人材を育成～



ド大学SPICEとの

KyuSan-UJ



(UNWTO)観光教育  
の取得

制導入を見据えた全  
推進  
構築等)

人リスクリング教育の

## 2024

### 文芸融合教育の発展と 大学運営体制強化

- 文芸融合のプロジェクト型教育  
東京ゲームショウの学生コンテストで  
「最優秀ゲーム賞」受賞



- AI・データサイエンス副専攻プログラム  
を延べ約5,000人の学生が受講

- 大学運営体制の強化  
新設

- ・「インクルージョン支援室」  
～様々な学生の学修の機会均等や学修  
目標への到達を支援する体制を整備～
- ・「アート&デザイン研究センター」  
～地域やグローバル社会における  
文化芸術を振興～
- ・「産学共創・研究推進本部」  
～産業界や地域社会との連携・研究活動  
を一体的に推進～

- 大学発ベンチャーの育成  
～オープンイノベーションセンターでの  
起業支援により2名の学生が起業～

- 新ブランドメッセージの決定  
「次代を描く感性、世界を動かす実践力」



## 2025

### 教育改革の実装と 第2フェーズへの展開

- 導入\_クォーター制プラットフォーム  
～4期制の導入で、学修効果の向上・海外  
経験の増加へ～

- 理系人材の育成強化

- ・理工学部新学科「機械電気創造工学科」  
「スマートコミュニケーション工学科」の  
2026年4月設置が決定
- ・新設 SMARTFusion プログラム  
クリエイティブセンター コラボリウム



- 生成AIに関するリスクリング講座の開講

- 海外協定校数が37校に到達  
(第1フェーズ目標達成)

- 全学的なアントレプレナーシップ教育  
の展開

- ブランドマークを刷新・展開開始



- 中期計画第2フェーズの決定

## 第2フェーズ(2026-2030)へ

## 03 | 財務の概要

## 1. 決算の概要

※「財務の概要」については、2025年度決算報告の内容に基づき、推移とともに記載している。また、記載金額は、千円未満を四捨五入している。

## (1) 貸借対照表関係

## ① 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

資産の部					
科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
固定資産	100,040,519	100,724,575	101,932,609	103,776,893	104,875,480
流動資産	9,567,550	9,519,330	9,584,223	8,322,000	8,010,266
資産の部合計	109,608,068	110,243,905	111,516,833	112,098,893	112,885,746
負債の部					
科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
固定負債	4,396,242	4,227,249	4,540,686	4,516,833	4,458,790
流動負債	3,739,698	3,714,185	3,894,060	3,669,532	4,396,954
負債の部合計	8,135,940	7,941,434	8,434,747	8,186,365	8,855,744
純資産の部					
科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
基本金	112,512,875	114,029,690	114,837,641	116,786,414	118,160,974
繰越収支差額	△ 11,040,747	△ 11,727,219	△ 11,755,555	△ 12,873,886	△ 14,130,972
純資産の部合計	101,472,128	102,302,471	103,082,086	103,912,528	104,030,003
負債及び純資産の部合計	109,608,068	110,243,905	111,516,833	112,098,893	112,885,746

## ② 財務比率の経年比較

(単位：%)

比率名	算式	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	91.3	91.4	91.4	92.6	92.9
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	43.9	42.4	41.3	40.4	39.5
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	45.5	46.6	49.4	51.6	53.2
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	8.7	8.6	8.6	7.4	7.1
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	4.0	3.8	4.1	4.0	3.9
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	3.4	3.4	3.5	3.3	3.9
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	48.5	50.2	50.9	52.1	51.8
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	433.6	435.6	447.2	448.1	397.2
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	92.6	92.8	92.4	92.7	92.2
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	▲ 10.1	▲ 10.6	▲ 10.5	▲ 11.5	▲ 12.5
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	98.6	98.5	98.9	99.9	100.8
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	94.5	94.6	94.7	95.7	96.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	255.8	256.3	246.1	226.8	182.2
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	7.4	7.2	7.6	7.3	7.8
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	8.0	7.8	8.2	7.9	8.5
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	348.5	350.6	343.3	295.2	235.4
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	99.7	97.8	100.0	100.0	100.0
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.2	99.4	99.6	99.6	99.9
減価償却比率 (図書を除く)	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価額}}$	48.4	53.9	55.1	56.5	58.5
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	89.8	89.2	89.3	88.0	86.8

## (2) 事業活動収支計算書関係

## ① 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
<b>教育活動収支</b>					
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	11,002,209	11,449,898	11,707,679	11,982,914	12,288,648
手数料	378,484	373,418	332,876	353,365	410,551
寄付金	123,894	200,481	156,257	203,391	163,248
経常費等補助金	1,957,264	2,133,481	2,149,125	2,201,875	3,281,997
付随事業収入	195,721	217,773	199,805	173,510	205,492
雑収入	161,530	159,766	125,768	126,207	125,132
教育活動収入計	13,819,102	14,534,817	14,671,510	15,041,262	16,475,068
事業活動支出の部					
人件費	6,656,798	6,672,123	6,680,065	6,864,733	7,520,960
教育研究経費	6,052,432	6,508,173	6,619,676	6,701,331	8,018,138
管理経費	1,028,849	1,000,942	854,981	913,216	931,155
徴収不能額等	882	330	120	129	453
教育活動支出計	13,738,960	14,181,568	14,154,842	14,479,409	16,470,706
教育活動収支差額	80,142	353,249	516,669	561,853	4,362
<b>教育活動外収支</b>					
事業活動収入の部					
受取利息・配当金	315,973	280,358	287,425	414,527	520,559
その他の教育活動外収入	-	-	-	-	-
教育活動外収入計	315,973	280,358	287,425	414,527	520,559
事業活動支出の部					
借入金等利息	-	-	-	-	-
その他の教育活動外支出	-	-	-	-	-
教育活動外支出計	-	-	-	-	-
教育活動外収支差額	315,973	280,358	287,425	414,527	520,559
経常収支差額	396,115	633,607	804,093	976,381	524,922
<b>特別収支</b>					
事業活動収入の部					
資産売却差額	2,099,055	193,662	69,507	1,401	91,372
その他の特別収入	30,859	77,065	41,399	17,907	91,105
特別収入計	2,129,914	270,727	110,906	19,308	182,476
事業活動支出の部					
資産処分差額	104,023	73,991	135,385	165,246	68,819
その他の特別支出	-	-	-	-	521,105
特別支出計	104,023	73,991	135,385	165,246	589,924
特別収支差額	2,025,892	196,736	△ 24,479	△ 145,939	△ 407,447
基本金組入前当年度収支差額	2,422,007	830,343	779,615	830,442	117,474
基本金組入額合計	△ 1,545,244	△ 1,568,377	△ 1,019,488	△ 1,948,773	△ 1,374,561
当年度収支差額	876,763	△ 738,034	△ 239,874	△ 1,118,330	△ 1,257,086
前年度繰越収支差額	△ 11,917,510	△ 11,040,747	△ 11,727,219	△ 11,755,555	△ 12,873,886
基本金取崩額	-	51,562	211,537	-	-
翌年度繰越収支差額	△ 11,040,747	△ 11,727,219	△ 11,755,555	△ 12,873,886	△ 14,130,972
(参考)					
事業活動収入計	16,264,990	15,085,902	15,069,841	15,475,097	17,178,104
事業活動支出計	13,842,983	14,255,559	14,290,226	14,644,655	17,060,629

## ② 財務比率の経年比較

(単位：%)

比率名	算式	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	47.1	45.0	44.7	44.4	<b>44.3</b>
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	60.5	58.3	57.1	57.3	<b>61.2</b>
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	42.8	43.9	44.3	43.4	<b>47.2</b>
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	7.3	6.8	5.7	5.9	<b>5.5</b>
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	14.9	5.5	5.2	5.4	<b>0.7</b>
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入} - \text{基本金組入額}}$	94.0	105.1	101.7	108.2	<b>108.0</b>
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	77.8	77.3	78.3	77.5	<b>72.3</b>
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.9	1.5	1.1	1.4	<b>1.1</b>
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	12.1	14.4	14.4	14.2	<b>19.5</b>
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	9.5	10.4	6.8	12.6	<b>8.0</b>
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	19.9	18.4	17.6	18.0	<b>15.8</b>
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	2.8	4.3	5.4	6.3	<b>3.1</b>
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	0.6	2.4	3.5	3.7	<b>0.0</b>

## 03 | 財務の概要

## (3) 資金収支計算書関係

## ① 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学生生徒等納付金収入	11,002,209	11,449,898	11,707,679	11,982,914	12,288,648
手数料収入	378,484	373,418	332,876	353,365	410,551
寄付金収入	113,604	158,121	147,278	162,225	157,479
補助金収入	1,963,039	2,180,884	2,174,791	2,201,875	3,354,115
資産売却収入	2,431,645	1,875	168,693	-	579,281
付随事業・収益事業収入	195,721	217,773	199,805	173,510	205,492
受取利息・配当金収入	315,973	280,358	287,425	414,527	520,559
雑収入	161,527	159,756	125,759	125,551	125,127
借入金等収入	-	-	-	-	-
前受金収入	2,710,435	2,679,052	2,759,369	2,761,194	3,033,783
その他の収入	21,297,400	20,594,375	15,824,939	12,159,139	8,719,212
資金収入調整勘定	△ 2,487,740	△ 2,779,635	△ 2,739,578	△ 2,786,611	△ 3,460,401
前年度繰越支払資金	7,031,956	9,444,934	9,392,985	9,472,116	8,151,509
収入の部合計	45,114,253	44,760,809	40,382,021	37,019,805	34,085,356

(単位：千円)

支出の部	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
人件費支出	6,715,104	6,590,016	6,710,837	6,851,041	7,309,125
教育研究経費支出	3,438,849	4,003,683	4,257,268	4,202,453	5,551,165
管理経費支出	921,841	817,104	708,547	765,538	786,223
借入金等利息支出	-	-	-	-	-
借入金等返済支出	-	-	-	-	-
施設関係支出	409,662	623,981	627,270	472,682	1,252,440
設備関係支出	1,381,652	722,814	1,347,539	1,445,843	760,405
資産運用支出	23,411,206	22,380,979	17,703,150	14,763,979	10,921,742
その他の支出	664,102	880,942	905,595	1,104,145	851,824
資金支出調整勘定	△ 1,273,096	△ 651,695	△ 1,350,301	△ 737,385	△ 490,089
翌年度繰越支払資金	9,444,934	9,392,985	9,472,116	8,151,509	7,142,522
支出の部合計	45,114,253	44,760,809	40,382,021	37,019,805	34,085,356

## ② 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
<b>教育活動による資金収支</b>					
教育活動資金収入計	13,808,808	14,479,474	14,662,487	14,999,440	16,469,295
教育活動資金支出計	11,075,794	11,410,803	11,676,653	11,819,032	13,646,512
差引	2,733,014	3,068,671	2,985,834	3,180,408	2,822,782
調整勘定等	276,609	121,653	88,395	△ 425,805	△ 232,078
教育活動資金収支差額	3,009,624	3,190,324	3,074,229	2,754,603	2,590,704
<b>施設整備等活動による資金収支</b>					
施設整備等活動資金収入計	7,925,399	6,324,651	10,989,976	7,500,000	4,927,742
施設整備等活動資金支出計	8,791,314	8,611,070	14,659,779	12,189,758	8,899,935
差引	△ 865,916	△ 2,286,419	△ 3,669,803	△ 4,689,758	△ 3,972,193
調整勘定等	648,941	△ 396,935	457,542	90,216	△ 521,607
施設整備等活動資金収支差額	△ 216,974	△ 2,683,353	△ 3,212,261	△ 4,599,543	△ 4,493,801
小計 (教育活動資金収支差額+ 施設整備等活動資金収支差額)	2,792,649	506,971	△ 138,032	△ 1,844,940	△ 1,903,096

(単位：千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
<b>その他の活動による資金収支</b>					
その他の活動資金収入計	16,032,369	14,581,832	5,247,583	5,018,283	4,931,278
その他の活動資金支出計	16,411,848	15,140,784	5,028,667	4,492,745	4,038,449
差引	△ 379,479	△ 558,953	218,916	525,538	892,829
調整勘定等	△ 193	33	△ 1,753	△ 1,205	1,280
その他の活動資金収支差額	△ 379,672	△ 558,919	217,163	524,333	894,109
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	2,412,978	△ 51,948	79,131	△ 1,320,607	△ 1,008,987
前年度繰越支払資金	7,031,956	9,444,934	9,392,985	9,472,116	8,151,509
翌年度繰越支払資金	9,444,934	9,392,985	9,472,116	8,151,509	7,142,522

## ③ 財務比率の経年比較

(単位：%)

比率名	算式	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入}}$	21.8	22.0	21.0	18.4	15.7

## 03 | 財務の概要

## 2. その他

## (1) 資産運用の状況

- ・運用目的、運用目標、運用方針（基本ポートフォリオを含む）、資産運用に関するガバナンス体制、運用体制、本年度の運用の概況（運用目的ごとの貸借対照表計上額、時価、収益の状況等）等

## ① 2025年度 資金の保有状況

(単位：千円)

運用形態	2026年3月31日現在		
	帳簿価額①	時価総額②	評価差額②-①
債券	54,985,313	51,879,221	△ 3,106,091
株式	740,255	1,575,580	835,325
投資信託	1,693,805	1,679,590	△ 14,215
定期預金	8,200,000	8,200,000	-
普通預金等	1,665,785	1,665,785	-
合計	67,285,158	65,000,176	△ 2,284,982

## ② 2025年度 資金運用関連収益の状況

(単位：千円)

科目	2025年4月～2026年3月	
受取利息・配当金	+	520,559
有価証券売却差額	+	91,372
有価証券処分差額	△	2,307
合計		609,624

## ③ 運用体制等について

- ・本学園の有価証券運用に充当する資金は、学生生徒等納付金・寄付金・補助金等により形成された、大学の教育研究活動を安定的・継続的に支える重要な財産である。このため、当該財産の運用にあたっては、本学園の規則に基づき、安全性の重視を、第一の基本方針としている。
- ・安全性を重視する方針のもと、本学園の運用資産は、適格債券等を中心とした、相対的に元本の安定性が高い商品が大半を占めている。
- ・一方で、運用効率の向上を図る観点から、価額変動が相対的に大きい、株式・投資信託等についても、リスク管理の範囲内で一定額を保有している。
- ・本学園は、運用対象における格付け、保有限度額、時価の状況等に留意した運用に努めており、学園内の各種報告を通じた定期的なレビューにより、ガバナンス機能およびリスク管理機能を発揮する体制としている。  
 なお、評価差額については、市場環境の変動によるものであり、運用方針に基づき、保有を継続しつつ中長期的な観点で管理している。

## 03 | 財務の概要

### (2) 学校債の状況

学校債は発行していない。

### (3) 寄付金の状況（主な寄付金の使用実績等）

#### 受入状況

・ 特定の研究に対する寄付金（奨学寄付金）：	33,840 千円	* テーマ別募金
・ 使途設定のある寄付金（テーマ別募金*）：	119,894 千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文理芸が融合した多様な教育プログラムの推進</li> <li>・ グローバル人材育成プログラムの推進</li> <li>・ 特色ある研究の推進</li> <li>・ 多様な大学院生の獲得</li> <li>・ 海外留学プログラムの推進</li> <li>・ サークル活動の活性化</li> <li>・ 就職活動支援プログラムの推進</li> <li>・ 産学連携のさらなる推進</li> <li>・ ダイバーシティの推進</li> <li>・ SDGs 等、地域社会の課題解決プロジェクトの推進</li> <li>・ 奨学金制度による学生支援の充実</li> <li>・ 寄付者による個別指定寄付</li> <li>・ 指定なし（古本募金及び学内自動販売機募金も含む）</li> </ul>
・ 使途の設定のない寄付金	： 3,745 千円	
・ 現物寄付	： 5,769 千円	

#### 使用実績

寄付金については、それぞれの寄付目的に基づき、教育研究活動、学生支援、人材育成及び地域連携事業等に適切に活用した。

テーマ別募金では、学園の特色ある教育研究プログラムや学生支援のさらなる充実を図るため、13のテーマで活用した。

主なテーマとして、「文理芸が融合した多様な教育プログラムの推進」では、地域や企業、行政と連携してプロジェクトを立ち上げ、学部・学科の枠を超え、140のプロジェクトを展開した。また、「奨学金制度による学生支援の充実」では、本学園独自の奨学制度により、一人ひとりに寄り添ったサポート体制を構築した。

### (4) 補助金の状況

#### ① 国庫補助金：3,279,862 千円

・ 経常費補助金	：	1,219,324 千円
・ 授業料等減免費交付金	：	2,042,190 千円
・ 物価高に対する食の支援事業	：	1,000 千円
・ Innovate MUSEUM 事業	：	17,348 千円

#### ② 地方公共団体補助金：2,136 千円

#### ③ 施設設備費補助金：72,188 千円

・ 8号館 LED 化事業（大学）	：	20,625 千円
・ 先端電子材料物性測定システム	：	51,493 千円

※ 各補助金については、交付目的に基づき、教育研究活動、学生支援、人材育成及び地域連携事業等に適切に活用している。

### (5) 収益事業の状況

収益事業は行っていない。

## 03 | 財務の概要

### 3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

財務状況を分析するための指標の1つとして財務比率があり、本学園の各計算書関係比率は前出のとおりである。

#### (1) 貸借対照表関係比率について

2025年度の比率は、2024年度決算に引き続きほぼ全国平均並み、もしくはそれ以上となっている。この良好な比率を維持できている主な理由は、充実した施設設備への投資、潤沢な運用資金の確保、無借金での経営といった、安定した財務基盤が築かれていることである。

前出のとおり、安定した財務基盤を構築できている。今後は、教育研究の質向上や物価高等にも対応しつつ、継続して強固な財務基盤を確立していく。

#### (2) 事業活動収支関係比率について

2025年度の本学園と2024年度全国平均値（医歯系を除く）を比較すると、人件費比率44.3%（全国平均値 [以下同じ] 50.9%）、人件費依存率61.2%（70.7%）、教育研究経費比率47.2%（37.3%）、管理経費比率5.5%（8.9%）などが良好な数値を示している。

また、教育活動収支差額比率は、昨年度から3.7ポイントマイナスの0.0%（0.3%）、経常収支差額比率は、昨年度から3.2ポイントマイナスの3.1%（2.7%）となったが、人件費の大幅なベースアップ、物価高への対応を行いつつも経常収支差額比率については全国平均を上回っており、全体としては概ね安定した水準を維持している。

中期財務計画では、学生生徒等納付金の確保、また、その他の収入の増加策により、各比率の向上に努めていくとともに、学生への教育に更なる還元を行う。

## 04 | 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

### (1) 関係する決議の概要

改正私立学校法（2025年4月1日施行）に基づき、大臣所轄学校法人等においては、「理事の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制」その他学校法人の業務の適正を確保するために必要な文部科学省令で定める体制の整備について、理事会で決定することが必要となった。

これを受け、学校法人中村産業学園は、2024年12月18日（水）開催の理事会において、「学校法人中村産業学園内部統制システム整備の基本方針」を議決し、策定した。

同方針は、理事の職務執行が法令及び寄附行為に適合し、法人業務の適正を確保するための体制を定めたものである。

その概要として、経営管理においては、理事会及び評議員会の役割や権限を明確にし、重要事項の審議・決定、理事の職務執行の監督、議事録等の適切な保存、内部監査による業務執行状況の確認を行うこととしている。

また、リスク管理においては、各部所が定期的にリスクを点検し、総務部が統括して理事長等へ報告する仕組みを整備するとともに、重大なリスクについては理事会で審議することとしている。さらに、災害・事故等の緊急時には危機管理規程等に基づき対応し、研究費の適正経理や研究不正防止にも取り組むこととしている。

コンプライアンス面では、役員及び職員の法令遵守と倫理意識の醸成を図り、教育・啓発活動や匿名通報窓口を通じて、不正の未然防止、早期発見及び是正に努めることとしている。

加えて、監事が重要会議への出席や書類閲覧等を通じて適切に監査を行える環境を整備し、必要に応じて、理事会の議決により本方針を改正することとしている。

### (2) 体制整備及び運用状況の概要

#### ① 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ・理事会は、定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令及び「寄附行為」に従い、必要な事項については評議員会の意見を聴取したうえで、業務執行上の重要事項を審議・決定するとともに、理事の職務執行を監督している。
- ・理事会及び評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、「寄附行為」及び「文書規程」に基づき、適切に作成、保存及び管理する。
- ・理事の職務執行については、理事小委員会及び理事会で諮られ承認・議決されることから、その情報はそれぞれの会議体の議事録に取りまとめられ、永久保存して管理している。その他、各種委員会等についても同様に議事録を一定期間保管している。
- ・その他、「情報セキュリティ規則」及び「情報システム規程」に基づき、情報管理及びデータ保存等を行っている。

#### ② 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ・事業活動に関するリスクについては、法令及び本法人の規程等に基づき、職務執行部所が定期的にリスクの点検を行い総務部に報告するなど、自律的に管理することを基本とする。なお、差し迫ったリスクが認められた場合は、速やかに総務部に報告している。
- ・リスクの統括管理は総務部が担当し、総務部は職務執行部所から報告を受けたリスクをリスク管理統括責任者（理事長）、リスク管理統括副責任者（総務担当理事）に報告している。
- ・本法人の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクについては、理事会で審議し、必要に応じて対策等を決定している。
- ・役員及び職員が、法令、「寄附行為」及び「コンプライアンス推進規則」等を遵守し、確固たる倫理観をもって事業活動等を行う組織風土を高めることとしている。
- ・本法人の役員及び職員のコンプライアンス意識の醸成と定着を推進するため、「コンプライアンス推進規則」に基づき、教育及び啓発活動を継続して実施し、周知徹底を図ることとしている。
- ・リスク管理に関し、体制及び「リスク管理規程」に基づき、役割権限、リスクの評価方法、リスク対応方法等を明確にしている。
- ・災害、事故その他の緊急時の対応組織や情報連絡体制等については、「危機管理規程」及び「危機管理マニュアル」に基づき、必要な措置を講じる。更に、継続的な教育と定期的な訓練を実施している。
- ・研究活動について、内部牽制機能による研究費の適正経理、研究不正の防止及び知的財産の保護を確保するため、「コンプライアンス推進規則」に基づき、必要な措置を講じている。

## 04 | 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

### ③ 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・「寄附行為」に基づき、業務を執行する理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図ることとしている。
- ・「寄附行為」、「事務組織及び事務分掌に関する規程」及び「職務権限規程」に基づき、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高めることとしている。
- ・寄附行為及び「寄附行為施行細則」に基づき、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制を明確にし、適切な理事会及び評議員会の運営を行っている。
- ・その他、理事小委員会や理事長及び常務理事等が定期的に打合せを行い、秘書室による業務バックアップも合わせて職務執行の効率化に努めている。

### ④ 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

- ・「寄附行為」、「事務組織及び事務分掌に関する規程」及び「職務権限規程」に基づき、理事、職員等の職務執行の適正性を確保するとともに、機動的な業務執行と有効性・効率性を高めることとしている。
- ・業務の適正及び効率性を確保するため、内部監査部門を設置し、業務を執行する各部所の職務執行状況等を定期的に監査することとしている。

### ⑤ 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等

- ・監事は、「監事監査規程」に基づき、公平不偏の立場で監事監査を行っている。
- ・監事は、理事会、評議員会等の重要会議への出席並びに重要書類の閲覧、調査及び質問等を通して、理事等の職務執行についての適法性、妥当性に関する監査を行っている。
- ・監事が職務を補助する職員（以下「補助職員」という。）を置くことを求めたときは、監事の求めを尊重し、補助職員を配置することを検討することとしている。
- ・理事及び職員等は、職務執行状況等について、監事が報告を求めた場合には、速やかにこれに応じることとしている。

## 附属明細書

- ・該当事項はありません。

# 次代を描く感性、世界を動かす実践力



次代を描く感性、世界を動かす実践力  
九州産業大学  
九州産業大学造形短期大学部

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台二丁目3-1  
TEL (092) 673-5505 / FAX (092) 673-5025 / E-mail kikaku@ml.kyusan-u.ac.jp

大学公式 SNS 発信



kyushusangyo.  
university



九州産業大学



九州産業大学



@kyusan\_kouhou

